

学校はほんとうに役立つの？

じっくり考えた

今年の

「みんなの会小矢部」は9月22日、石動コミュニティセンターで教育懇談会と総会を開きました。

子育てや学校のこと、子どもたちの未来のことなど、じっくり話し合う中で、私たち自身の「教育力」を高めましょ、と地域の人や父母、先生が集まりました。

「子どもがぐずぐず言うので、学校は休ませます。無理して学校へ行かせることはない。自分は、学校教育が仕事に役立ったとは思えない」と電話してきたお父さんに何と応えたらいいのか」とある先生が切り出されました。

学校教育は価値があるのか、いきなりテーマに。交わされた意見をまとめると、次のようになります。

学校の役割

基礎知識とその応用力 を身につけてもらうところ

学校は、みんなと学習することを通して分かる楽しさを共有できるところ。教えあったり助け合ったりして学習するから、学習が深まり、表現力や想像力、考える力が育ち、人とのコミュニケーション力が育ちます。

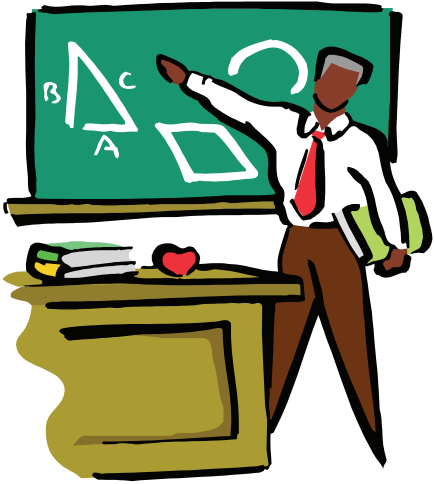
子どもは本来いろんなものに関心を示し、分かる、考えようとするものです。でも、速いスピードで授業が進むと、「分かった！楽しい」と感じる前に、落ちこぼれてします。

知識や応用力だけでは不十分です。

もう一つの学校の役割

自立し主権者として生きる力 を身につけてもらうところ

運動会の応援合戦、学習発表会での舞台発表、学級で計画する活動。これらの中に、最高に自分を表現して生き生きと活動し、みんなで力を合わせるって楽しいということを実感している姿を見ます。今、学校は行事を切り詰め、児童会・生徒会は形ばかりになっていきます。自分の考えを言い合ひ、計画・実行し、みんなと連携している喜びを味わう機会が少なくなっています。意見を言い合うことでリーダーが育ち、他人の人格を大切にすることが育ちます。自分で判断できる自立した人間、主権者として生きる力が育つのです。



先生が語る「学校」

学校には「？」がいっぱい

「みんなの会」教育懇談会

懇談会のなかで、先生から最近の学校の実情が語られました。

荒れる子ども

学級崩壊状態にも

授業が始まってからも教室に入らない子・教室を抜け出す子。授業中にボールが飛び交いそのうちにあっちこちでけんかが始まる。

先生に注意されると「先生なんか嫌い」と、聞く耳なし。「学校に火つけて先生なんか殺してやる」と子どもの言葉とは思えないような言葉が出ることも。児童昇降口には、教室を抜け出してきた子どもが次々と集まってくることもある。

こうして、授業がわからないう、学校不振、などのストレスに耐えているのでしょうか。

子どもに「担任がいや」と言われたら、先生はどうすればいいのでしょうか。

ぼく、だめな子？

K君は、高学年にふさわしい理解力はあるのに、基礎知識が怪しい。1年程度の漢字しか覚えられず掛

け算九九も不確か。落ち着きがなくそわそわし、人とうまく関われない。情緒が安定しません。

L君は「一生懸命にがんばっているのに」と、劣等感で苦しんでいます。

M君は、枠には

まらない人間を排除しようとする風潮の中で孤立させられています。

こんな子どもたちを、手のかかる問題児として見るだけでよいのでしょうか。子どもをとりまく先生も親も、世間も、どうしてそうなっているのか振り返ってみる必要があるそうです。

昔は学校にも地域にも、どんな子ども優しいまなざしで受け入れる余裕がありました。

なんでもかんでも点数化

規範意識を育てるため？

朝のあいさつを友達にすると1点、大人にすると2点。

掃除は集合時間に遅れず、はじめと終わりのあいさつをし、しゃべらず黙っていると○。

長休み・昼休みは元気に外で遊ぶと○。

登校はきまった順番で一列に並んで歩く○。

廊下は走らず歩いて動く○など。

家でも早寝早起きをし、朝食をきちんととると○。もちろんできないと×。

○×は一週間まとめて点数にする。

「二日中の行動を点数化している」と息が詰まります。ここまで細かくチェックしないと子どもは成長しないものなのではないか？」と先生。

【表(1)面から続く】

教師もアップアップ

次の指導計画を考えるには教えたことがどこまで理解されたかの知ることは必要です。テスト点数の入り。そして生活チェックについてまで数値目標の追求。データ化しなければならぬので、入力。毎日パソコンに向かう日々が続きます。こんなことをしているより子どものそばにいてやりたくありません。子どもは、休み時間や放課後ゆったりとした表情で自分を見てくれる先生が好きです。

「教師も、評価されるってストレス。恐怖感さえもつてしまう」と先生。学習参観があるたび親からのアンケートという評価。学期ごとに同じく教師評価のアンケート、さらにこれをうけてどう改善したかと自己評価。もちろん管理職の評価。これで先生の教育力は高まるのでしょうか、親と先生の相互信頼関係は深まるのでしょうか。

先生は疲れきっています。

先生も、親も、

どうすればいいの？

「もう子どもとかかわりたくない、自分がうつ状態で、何にもしたくない」など、辛さを訴える親が増えています。一時間も携帯で電話をしてくることとあります。親のストレスの吐け口になったのか、虐待と思われるようなあざをつけている子どもも時々見られます。

登校を渋ったとき、学校なんか行かなくてもいいと考える親もいます。学習が遅れが見られたとき、放課後個別指導しようとする、うちの子だけ残すのは差別だといわれることもあります。どうすれば先生と親が理解し合えるのでしょうか。

学校はどう変わればいいのか？

日本の子どもの学力・心をどう育てるか



例えば、8位から14位に下がった読解力をみると、「1未満」の子どもが前回の2.7%から今回7.2%に大幅増。「3未満」(普通より劣る)は39.9%も。どの教科でも無回答(白紙)がとび抜けて高く、自主的な家庭学習時間は最低ライン。

普通の子が少なくなり、できる子とできない子の「二極分化」が強まっています。

子どもたちが楽しい学校はどんな学校でしょうか。OECDが実施しているPISA学力調査をヒントに、考えてみました。

PISA調査でわかったこと

2003年のPISAの学力調査結果に、日本のマスコミは「学力低下」と大見出し。ところが順位が少し変動しても、日本の子どもの学力は2000年と同様、世界のトップクラスではあったのです。ただし、深刻な問題がはつきりました。

- ① 基礎知識は高いのに応用力がかなり低い「いびつな学力」になっていること。
- ② できることできない子の学力格差が大きいこと。

テスト競争では育てられない学力

日本では「数値化される学力」だけを学力と考えがちで、点数競争によってそれを高めようとしています。

しかしPISAは、「知識や技を課題に活用する力、思考プロセスの習得、概念の理解やさまざまな状況でそれらを生かす力」、つまり、「自分でしっかり考え、自分の生活の中で知識を応用してゆく力」を学力と考えています。

これは、暗記力や記号操作的な理解力の「順位」を競わせるやり方では育てられない学力です。しかも一生懸命の子を支えてくれる、大切な力です。

日本では子どもたちは激しい「順位」競争に疲れています。

フィンランドの学校にはそのような競争はありません。友達と話し合ったり、自分の生活の中にその応用問題を見つけたらして、最後までわかることを目指しています。そして世界一となりました。

こんな学校をつくるために、子どもたちがふれあい、子どもと先生がゆくり対話できる少人数学級がどうしても必要です。最低限の条件です。それが満たされればじめて、先生が「先生」として、生き生きと働き始めるのです。

国の責任で30人学級を実現させるための署名を

小矢部で1000筆以上集めよう！

第7回総会では、昨年の小矢部市長選挙での「公開質問状」の取り組みや、「30人学級」署名と、教育基本法改定反対の署名、全国統一学力テスト反対の小矢部市教育委員会への申し入れなどの経過が報告されました。

来年度予算編成に向けて、県が実施している小1、2年生対象の35人学級を3年生以上にもひろげることや国に30人学級を実現させることなど、6項目の活動方針が確認されました。

最後に6人の世話人が再任され、代表には堀内喜亨さんが選ばれました。

総会で確認された活動方針

- ① 『30人学級』署名1000筆を目標に、出前学習会、街頭署名、宣伝活動などの活動に取り組む。
 - ② 日本国憲法をよりどころに、旧教育基本法の精神の実現につながる要求の実現に努める。
 - ③ 教育条件について調査活動をおこなう。
 - ④ 「水道料金の引き下げを求める会」と協力する。
 - ⑤ 並行在来線問題について要望を集約する活動に取り組む。
 - ⑥ 教育条件整備の要求を含め、これらの要求実現のために県政刷新を目指す活動を、要求を同じくする諸団体とともに取り組む。
- 〔30人学級実現を求める署名用紙が必要な方は、次へ連絡してください。〕

堀内喜亨(小矢部市胡麻島206)
携帯電話 090-8266-0308